

## 21. 防災教育で最も重視されるものとはなにか？

防災教育は学校、町内会、自治会、企業、自治体などさまざまな場面で行われますが、いろいろな課題を抱えています。最終目的は、もちろん命を守ることですが、自分自身と身の回りの家族、近くにいる人々の命も守ることができるようになることも大事です。

学校の場合、防災教育でよく行われるのが避難訓練です。幼稚園から高校までの間に避難訓練を経験した方は多いのではないのでしょうか。いざとなったら逃げる、避難することが大事なことは言うまでもありません。しかし、災害の種類によって避難場所を選ぶ必要があります。つまり、地震の時の避難と洪水の時の避難場所は違います。たまたま同じ場所で両方に対応できる場所もありますが、多くは違うところです。地震の時は上から物が落ちてこない広場や頑丈な建物が望ましいですが、洪水や浸水の場合は、水が集まりやすく低い土地では、いくら頑丈な建物でも水没して避難場所には不適です。市町村で配布するハザードマップには、避難場所の場合分けを示しています。これをよく理解して使わないと、危険な目に遭います。また、自宅以外の場所への避難が絶対的な方法だと思ひこむことも危険です。雨の夜間に避難する途中で増水した水路に落ちて被災された方もいます。また、2024年1月の能登半島地震では、ゆれによる被害や液状化による被害、断層による地殻変動での海岸の隆起など多くの種類の被害がありました。このようなことから、自然災害は地域性があり、その地域の地形や地盤、災害の履歴が深く関係していることが理解できます。地域の地形や過去の災害、地盤の分布、構成などの情報はなかなか手に入れる機会がありません。実際の問題として、学校や家庭、町内会、自治会などの防災教育ではこのような地域情報を題材として取り上げることが効果的ですが、教材不足や専門家の不在などで、なかなか難しいと思われます。学校での防災教育の課題として挙げられているのは、教職員の知識不足、内容のマンネリ化、これでよいかどうかわからないの3点でした（わが国の学校における防災教育の現状と課題-全国規模アンケート調査の結果をもとに-、防災教育学研究1（1）：19-30、2020）。これは町内会や自治会などにも共通する課題と感じます。

防災教育と一口に言っても、いろいろな理由で防災に熱心な人ばかりではありません。課題はこの辺にもあります。ただし、命が惜しいのは皆さん同じですから、地域情報を確認し、まずは自分と家族を守る、近所や近くにいる人を助けることを目指して、防災の基礎知識を学ぶことが大事だと思います。

地域情報は、非常に多岐にわたり、上に述べた地形、地盤情報、災害史を始め、地域に住んでいるさまざまな専門家を、地域の人材バンクなどに登録し、普段からの交流や、その専門を生かした事前の備えなども考えておくことが重要だと思います。普段の交流のきっかけとして、地域のお祭りなどみんなが集まるイベントを企画して、顔のつながりを作っておくことも一つの方法ではないかと思われます。これらを通して、地域の防災を考えることが有効ではないかと思ひます。

(T. K.)